

2015年度東北芸術工科大学入学式 祝辞

2015年4月5日

尾池和夫

東北芸術工科大学に入学された皆さん、大学院に進学された皆さん、おめでとうございます。ご家族の皆さま、こころからお祝い申し上げます。さる3月21日に行われた卒業式でも、壇上に今日と同じみごとな啓応桜が活けられていました。同じ3月21日に、鹿児島からスタートした桜前線が、昨日仙台までやってきて、東日本では平年より早い開花となりました。

その卒業式には、ボーカルで活動する森友嵐士（あらし）さんが、サプライズ出演しました。昨年10月、企画構想学科の学生が運営する「月山青春音楽祭」に出演したとき、学生たちの熱意に感動して「サヨナラは歩き出す」という詞を彼は書きました。卒業式では3年生30人が、卒業生に向けて合唱し、その途中で、あらしが唄いながら登場するというサプライズでした。このときの3回生の合唱は、本当に素晴らしいものでした。

日本列島は大地の多様性を特徴とする列島です。細かい地質と、細かい地形を持ち、多くの盆地と多くの峠を特徴とする地形を持っています。その中に多様な文化が育ってきました。京都市も山形市も、日本列島の特徴である盆地の構造の中に発達した都市です。

この東北芸術工科大学がある山形には縄文文化が育ちました。姉妹関係の京都造形芸術大学は、1300年の悠久の歴史を持つ京都市にあり、分厚い堆積層に含まれる豊富な地下水をもとにした文化があります。2つの大学にはそれぞれ、同じ黒御影石の「藝術立国之碑」があります。京都造形芸術大学では大階段を登ったところに立っていて、同じ3行の言葉が、両方の大学の共通の基本理念を示しています。在学中に両大学の多くの学生たちが交流を深める機会を持っていただきたいと思います。

私は日本ジオパーク委員会の委員長をつとめています。日本列島の特徴を学ぶ大地の公園としてジオパークの活動を推進してきました。山形県にはまだそのジオパークができてませんが、ようやく、この3月24日、月山の地元関係者が推進協議会を設立して活動を開始しました。月山ジオパーク推進協議会は、鶴岡市など5市町村と国や県、商工観光団体など35団体で構成されており、夏まで豊富な雪が残る気候、地滑りによる地形環境、出羽三山の信仰文化などを活かしたジオパークを目指そうとしています。このような活動の中でも、またこの大学の学生さんたちが、さまざまの面で活躍できる機会があるかもしれません。

最近の注目される報道の中で、根岸吉太郎学長と奥山恵美子仙台市長との間の協定書の調印ということがありました。この大学の知的資源、人的資源の活用で、まちづくりに知

恵を活かそうというものです。すでに大きな実績を残しているプロジェクトの延長だと聞きました。また、山形市が東北芸術工科大学の学生の作品を2点購入したというニュースがありました。大学院2年の古田和子さんの日本画「あるひもりのなかで」(40号)と大学4年生の鈴木智奈美さんの版画「light (ライト)」の2点です。

このような活動は、皆さんが入学したこの大学が、芸術とデザインを基本として、科学と技術と学術と芸術という、人間が学ぶべき基本をそろえているという、たいへん珍しい学習環境を持つ大学であるということに由来すると私は思っています。その恵まれた学習環境を大いに自分のものとして取り込み、本日入学式を迎えた学部の皆さんには、4年後に学位をみごとに得てほしいと思います。

京都と山形という、大地の多様性と多様な文化を持つ日本列島の、いわば要を相互に結びながら、2つの大学が交流しつつ、共通に掲げる藝術立国の理念のもと、世界の平和を実現することを目ざして、皆さんとともに、私も活動していくことを約束して、入学式の私のお祝いの言葉といたします。

あらためて、ご入学、まことにおめでとうございます。

ありがとうございました。